

小児外科

1. スタッフ (2022年4月1日現在)

科長(教 授)	小野 滋
病棟医長(助 教)	馬場 勝尚
外来医長(病院助教)	辻 由貴
医 員(講 師)	薄井 佳子
医 員(病院助教)	坂野 慎哉
シニアレジデント	1名

2. 診療科の特徴

「子どもと家族に優しい医療」を基本理念とし、世界水準の小児医療を地域医療へ還元することモットーにしている。さらに数だけでなく、安全で質の高い小児外科医療の提供を行なっている。

・施設認定

日本小児外科学会専門医制度 認定施設
日本外科学会専門医制度 認定施設
日本周産期・新生児医学会認定 基幹施設
日本小児血液・がん専門医研修施設

・専門医

日本小児外科学会 指導医	小野 滋
	薄井 佳子
日本小児外科学会 小児外科専門医	小野 滋
	馬場 勝尚
	薄井 佳子
	辻 由貴
	關根 沙知
日本外科学会 指導医	小野 滋
	薄井 佳子
日本外科学会 外科専門医	小野 滋
	馬場 勝尚
	薄井 佳子
	辻 由貴
	關根 沙知
	坂野 慎哉
小児血液・がん学会認定外科医	小野 滋
日本がん治療認定医	小野 滋
	坂野 慎哉
日本周産期・新生児医学会認定外科医	薄井 佳子
Pacific Association of Pediatric Surgeons active member	小野 滋

3. 診療実績・クリニカルインディケーター

1) 外来患者数: 4,124名、
新来患者数 397人
再来患者数 3,727人
紹介率 51.8%

2) 入院患者数: 355名

3) 手術患者数: 305例

3-1) 手術症例病名別件数

主な手術症例病名	術名	件数
気管狭窄症・声門下腔狭窄症	硬性気管支鏡	15
	レーザー焼灼術	4
	Tチューブ挿入	2
Goldenhar症候群、気管軟化症	硬性気管支鏡	1
	軟性気管支鏡	1
	Tチューブ挿入	1
CHARGE症候群	硬性気管支鏡	1
気管無形成	軟性気管支鏡	1
気管軟化症	軟性気管支鏡	5
	硬性気管支鏡	4
	レーザー焼灼術	1
喉頭気管食道裂	硬性気管支鏡	1
抜管困難、呼吸不全	気管切開術	1
誤嚥性肺炎	喉頭気管分離術	1
喉頭気管分離術後、皮膚瘻	皮膚瘻摘出術、気管孔形成術	1
舌小帯短縮症	舌小帯切離術	1
甲状腺管囊胞	シストランク法	3
気胸	胸腔鏡下肺部分切除	1
	胸腔ドレナージ	8
	胸膜瘻着術(自己血)	1
胸水貯留	胸腔ドレナージ	4
肺分画症(肺葉内1、肺葉外1)	開胸分画肺切除	2
気管支閉鎖症	開胸肺葉切除術	1
漏斗胸	バー抜去術	1
経口摂取困難	開腹胃瘻造設術	6
食道重複症(術後)、食道狭窄	胸腔内瘻着剥離術、上部消化管内視鏡	1
食道裂孔ヘルニア	開腹食道裂孔ヘルニア根治術、Nissen噴門形成術、胃瘻造設術	2
横隔膜ヘルニア	横隔膜ヘルニア根治術	1
肥厚性幽門狭窄症	ラムステッド手術	5

短腸症候群	上部・下部消化管内視鏡(ダブルバルーン内視鏡)検査	1
	上部消化管内視鏡検査、開腹胃瘻造設術	1
ヒルシュスプルング病(疑い)、難治性便秘症	直腸生検	2
ヒルシュスプルング病類縁疾患	中心静脈カテーテル挿入(シース法:1、内頸静脈穿刺:1)	2
小腸閉鎖症(空腸膜様閉鎖)	膜様部切除	1
胎便性腹膜炎、小腸閉鎖症	小腸-小腸吻合術	1
多発小腸閉鎖症、腸回転異常症	多発小腸閉鎖症、腸回転異常症	1
”(術後イレウス)	開腹癒着剥離術、小腸ストマ造設術	1
小腸軸捻転	小腸部分切除、回腸ストマ造設術	1
	回腸ストマ閉鎖術	1
腸回転異常症	Ladd手術、無菌的虫垂切除術	1
小腸閉鎖症術後イレウス	腹腔鏡下癒着剥離術	1
	開腹癒着剥離術、回腸部分切除術	1
結腸ストマ造設状態(総動脈管遺残)	ストマ閉鎖術	1
”、ストマ閉鎖術後縫合不全	ストマ再造術	1
虫垂炎	待機的腹腔鏡下虫垂切除術	14
	待機的腹腔鏡下虫垂切除、癒着剥離術	1
潰瘍性大腸炎	腹腔鏡下残存結腸全摘、回腸囊肛門吻合、回腸ストマ造設術	1
	回腸ストマ閉鎖術	1
腸管重複症(回腸)	腹腔鏡補助下回腸部分切除、回腸-回腸吻合	1
消化管穿孔	腹腔ドレナージ	1
	回腸ストマ造設術	1
	回腸ストマ閉鎖術、癒着剥離術	1
	回腸ストマ再造設術	1
	回腸ストマ閉鎖術	1
	回腸穿孔部閉鎖術	1
限局性腸管穿孔(回腸)	腹腔ドレナージ	1
	回腸ストマ造設術	1
	回腸ストマ閉鎖術	1
S状結腸穿孔(異物による)	内視鏡下異物除去術	1
原発性腹膜炎(術後)	腹腔鏡下癒着剥離術、メッケル憩室切除	1
腸重積症	非観血的整復術(高圧浣腸)	6
直腸肛門奇形、左心低形成	ストマ造設術	1

総排泄腔遺残	腹会陰式肛門形成術	1
	ストマ閉鎖術	1
”、ストマ閉鎖術後縫合不全	横行結腸ストマ再造設	1
直腸肛門奇形術後、ストマ造設状態	S状結腸ストマ閉鎖術	1
イレウス(臍ヘルニア術後)	審査腹腔鏡、臍ヘルニア根治術	1
腸管気腫症	中心静脈カテーテル挿入(留置できず)	1
胎児水腫、腹水	腹腔穿刺	1
胆道閉鎖症	胆道造影、肝門部空腸吻合術、肝生検	1
胆道閉鎖症(術後)	上部消化管内視鏡	6
胆囊結石症	腹腔鏡下胆囊摘出術	1
急性胆囊炎、胆囊結石症	腹腔鏡下胆囊摘出術	1
先天性胆道拡張症	肝外胆管切除、肝管空腸吻合術、肝生検	2
先天性胆道拡張術術後、腹痛	上部消化管内視鏡、腹腔鏡下癒着剥離術	1
遊走脾	腹腔鏡下脾固定術	1
腹壁破裂	サイロ形成術	1
臍ヘルニア	根治術	8
白線ヘルニア	根治術	1
	腹腔鏡下白線ヘルニア根治術、臍ヘルニア根治術	2
外単径ヘルニア	根治術	83
	腹腔鏡補助下鼠径ヘルニア根治術	1
陰囊水腫、精索水腫	根治術	20
停留精巢、移動性精巢	精巢固定術	17
臍部腫瘍	臍部腫瘍摘出術	3
前縦隔腫瘍	前縦隔腫瘍切除術	1
巨大胸腺腫瘍(胸腺過形成)	胸腺摘出術	1
肝芽腫	肝右葉切除術	1
神経芽腫(副腎原発)、転移性肝腫瘍	副腎腫瘍切除術、肝腫瘍生検	1
骨盤腫瘍(リンパ腫)	開腹腫瘍生検	1
上腕腫瘍(筋線維腫症)	腫瘍生検	1
卵巣囊腫	卵巣囊腫開窓術	3
良性皮下腫瘍	腫瘍切除術	4
肛門ポリープ	肛門ポリープ切除術	1
直腸ポリープ	直腸ポリープ切除	1
陰唇癒合	陰唇癒合切開術	1
ミオパチー疑い	上腕二頭筋生検	1
下頸膿瘍(好中球減少症)	下頸膿瘍ドレナージ	1
下頸裂創	縫合閉鎖術	1
リンパ管奇形	OK-432局注硬化療法	7
	切除術	1
胸壁動静脉管奇形	切除術	1
後頸部囊胞	試験穿刺	1

副耳	副耳切除術	1
臍部カテーテル部出血	臍部カテーテル結紮止血	1
消化管異物	透視下マグネットカテーテル摘出術	4
CVカテーテル、ポート挿入、抜去	CVカテーテル挿入	2
	CVポート挿入	1
	CVカテーテル抜去	4
	合計	329

3-2) 手術術式別件数・術後合併症件数

総手術症例数	329
合併症件数	7
再手術症例数	0

3-3) 新生児外科症例

症例	性別	病名	新生児期の治療
1	男	肥厚性幽門狭窄症	粘膜外幽門筋切開術
2	男	肺低形成、胎児水腫、鼠径部裂傷(分娩時)	死亡
3	男	肥厚性幽門狭窄症	粘膜外幽門筋切開術
4	女	消化管穿孔	腹腔ドレナージ(日齢0)、ストマ造設術(日齢1)
5	男	胆汁性嘔吐、腸回転異常症疑い	経過観察
6	女	会陰溝、前方肛門	経過観察
7	女	気管軟化症	軟性気管支鏡検査
8	女	胆汁性嘔吐、腸回転異常症疑い	経過観察
9	男	回腸捻転、volvulus without malrotation	回腸切除、回腸ストマ造設術
10	男	腹壁破裂	サイロ造設術(日齢0)、腹壁閉鎖術(sutureless closure)
11	男	腸回転異常症	Ladd手術、無菌的虫垂切除
12	女	肛門位置異常、前方肛門	経過観察
13	女	会陰溝	経過観察
14	女	腹腔内囊胞、肝囊胞	経過観察
15	男	腹部膨満、Hirschsprung病疑い	経過観察
16	男	多発小腸閉鎖症、内臓錯位、徐脈、心不全	小腸小腸吻合術(死亡)
17	女	回腸穿孔	腹腔ドレナージ(日齢6)、回腸ストマ造設術(日齢8)
18	女	高位空腸膜様閉鎖	高位空腸膜様切除
19	男	胎児腹水、胎便性腹膜炎疑い	経過観察(リンパ管奇形)
20	女	早産超低出生体重児、臍カテーテル部出血	臍カテーテル部結紮止血術

21	女	直腸肛門奇形、直腸閉鎖疑い、左心低形成	ストマ造設術(死亡)
22	女	右卵巣嚢腫	卵巣嚢腫開窓術
23	女	会陰溝	経過観察
24	女	左卵巣嚢腫	経過観察
25	女	先天性左横隔膜ヘルニア	横隔膜ヘルニア根治術
26	女	会陰溝	経過観察
27	男	BPFM、食道狭窄、両側ソケイヘルニア	経過観察(手術予定)
28	女	会陰溝、前方肛門	経過観察
29	女	胆道拡張症	経過観察(手術予定)
30	男	両側ソケイヘルニア	経過観察
31	女	右卵巣嚢腫	経過観察
32	男	食道閉鎖症疑い、肺静脈狭窄、単心室、総肺静脈還流異常	硬性気管支鏡検査(死亡)
33	女	小腸閉鎖症	小腸小腸吻合術
34	女	卵巣嚢腫	卵巣嚢腫開窓術

4) 化学療法症例：すべて小児科との併診

5) 放射線療法症例：すべて小児科との併診

6) 悪性腫瘍：手術症例を参照

7) 手術死亡症例：0例

8) 死亡症例：2例(遠隔期)

回避しうる再入院：0

術後創感染：2

術後続発症：5

褥瘡発生率：0

9) 主な処置、検査：上部、下部消化管造影検査(毎週木曜日午後)

超音波検査(小児画像診断部に依頼し必要時適宜)

10) カンファランス

入院症例検討：毎日朝・夕

小児放射線カンファランス：(毎週月曜午後)

周産期カンファランス：(毎週月曜午後)

腫瘍カンファランス(Tumor board)：(毎月第3月曜日+必要時適宜：小児科、小児画像診断部、小児外科系関係各科)

二分脊椎カンファレンス：(月1回；小児神経外科、小児泌尿器科、小児整形外科、看護部、PT)

栃木県小児外科症例検討会(年1回)

関東小児外科症例検討会(年1回)

11) キャンサーボード

参加診療科：小児外科、小児科、小児画像診断部、その他隨時必要な小児外科系各科
実績：1年間に12回+ α

4. 2022年の目標・事業計画等**1) 小児外科スタッフのさらなる拡充**

スタッフの体制の維持とシニアレジデント、大学院生の充実をはかる。新旧専門医制度に応じたレジデントローテートを隨時受け入れ、外科専門医育成により外科学教室全体の臨床充実に貢献する。

2) 学生教育

2年生、5年生、6年生への系統講義を継続し、6年生の系統講義枠の拡大充実を継続する。

5年生の必修BSLを1週間で担当し、地域医療に貢献する医師を育成する。選択BSLの受け入れも充実させる。

小児外科セミナーを隨時開講し、小児外科医療の普及と小児医療への貢献をはかる。

3) 臨床面での発展

栃木県内はもとより関東全域、東北地方の医療機関からも積極的に適応患者を受け入れ、医療圏のさらなる拡大をめざす。高度技能を要求される小児外科疾患の治療に対応すべく、更なる医療水準の向上に努める。

手術件数の増加を目指すとともに、小児外科に特化した手術内容の質の向上、充実をはかる。

4) 研究面での発展

臨床に即した問題点の解決をめざして、新たなリサーチプロジェクトを検討中である。難治性新生児疾患である気管狭窄症、A型食道閉鎖症に対する基礎研究のさらなる発展を進める。また、小児病理学の新たな研究開発を実践し発展させる。